特別自主山行記「立山三山縦走」2023.8.22～8.24

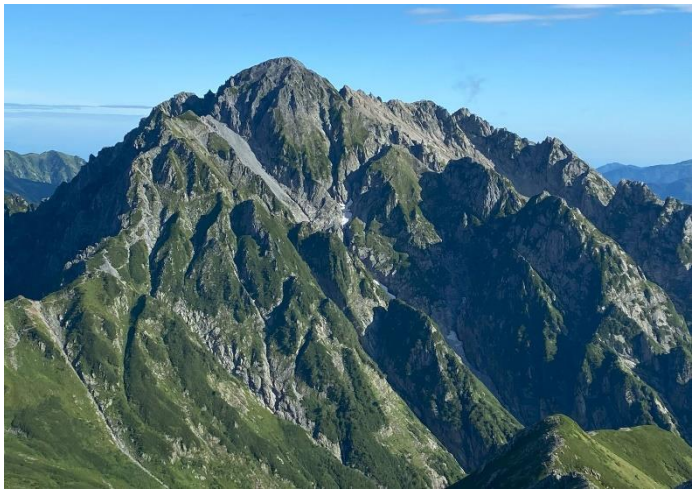
バスから降りると鼻を突く独特の硫黄の臭い。立山室堂に到着した。先ずはターミナル裏の立山玉殿の冷えた湧水を口に含むと心身に沁み通り長旅の疲れが癒され生気がよみがえる。よく整備された石畳の歩道進むと硫黄の臭いが強くなり噴煙を上げる地獄谷が左手に見え、やがて目的地の雷鳥荘に到着。湧き水でよく冷えた缶ビールを痛飲していると程なく黒部アルペンルートからのグループが合流。８月 22 日午後３時、山楽会有志女性５名男性６名総勢 11 名よる特別山行が幕を開けた。

天気予報では昼から雨。予定を１時間早め早朝３時過ぎに起床。外は強風。空には満天の星。南方に輝くオリオンが横臥する姿を見ていると遠い昔の子供の頃を思い出す。朝食の弁当を無理やり腹に押し込み、山行前の準備体操を入念に行い立山連峰に向けて始動。ヘッドランプで足元を照らしながら 11 名が隊列を組み暫く歩くと白々と夜が明け眼前には鮮やかな緑の草原が広がる。ヨツバシオガマが紅紫の房状の小花をツンと突き出し風にそよぎ小さな黄細花弁を広げたキオンがそれに同調し青紫のミヤマリンドウも顔を覗かせる。山荘のレジェンド室堂山荘の横を過ぎ朝日に映えるチングルマの茶色い綿毛を見ながらなだらかな道を上り詰めると室堂山展望台に到着。柔らかな朝陽下で遥か向こうにピョンと角を突き出した槍ヶ岳が見え一同大興奮。槍ヶ岳を掌に載せてハイ・ポーズ。来た道を戻り始めると草むらに動く影。雷鳥だ。息を殺してスマホを取り出す一同。静かにゆっくりアングルを変えて何度もシャッターを切る。標高 2700ｍの一ノ越山荘から立山の雄山に向かう道は標高差 300ｍの急峻な直線道。御年 80 歳の MS さんが先頭で自然観察指導員の MY さんがしんがりを務めゴツゴツの岩だらけの山道を一歩一歩ゆっくりゆっくり足元を確かめながら登り始める。やがて平地の３割減の酸素濃度で息が荒くなり、ひょいと頭を挙げると岩陰に白いトウヤクリンドウが群生し競って漏斗状の花弁を空に向けてそよぐ。漸く山頂に到達。10 時を過ぎたばかりの山頂だが多くの登山者で賑わい社務所で競ってお札を求めていた。霊峰立山の雄山神社は半坪程の石造り祠で 3003ｍの頂上に鎮座し、オレンジ色の狩衣を着て日焼けした顔の

神主が軽妙な語り口で首を下げた一同にお祓いを施してくれた。雄山からは滑りやすい岩場をゆっくりと下り更に稜線を上ると 20 分程で立山連峰の最高峰である大汝山 3015ｍに到達した。ゴツゴツした岩場の狭い山頂で 11 名全員が肩を寄せ合い何とか記念写真を撮影。少し下がった窪地の大汝休息所の周りにはタテヤマリンドウが淡い青紫の可憐に咲かせ昼食タイムとなる。一休みして稜線に沿って富士折立から更に進むと徐々に霧が深く視界不良で怪しげ気配となる。真砂岳の砂道に来たところで予報通り雨がパラパラ。内蔵助山荘まで後少しとめげずに歩くと大粒がザぁザぁ。慌てて雨合羽を着込み足元を確かめながら進むと宿泊先の内蔵助山荘にはほぼ予定通り午後２前に到着となった。濡れた衣服を乾燥室に吊り下げると宴会が始まる。ゴザが敷かれた狭い部屋一杯に 11 人が車座に尻をついて座りひょうきん者の SS さんが座を盛り上げる。日が陰りはじめ外に出ると標高 2800ｍの山荘から見下ろす富山湾の向こう能登半島の付け根の空が鮮やかな茜色に染まる。やがて藍色となり静かな夜闇が訪れると富山市内に明かりが点々と灯り終日を迎えた。

熟睡して目を覚ますと午前４時半。厚手のアウターを着込み薄暗い外に出ると山荘の東端に迫り出した広場があり既に山荘の宿泊客達が集まっている。午前 5 時半に鹿島槍ヶ岳の右奥遠くに薄暗く広がる志賀高原の空が明るくなると藍から青色へのグラデーション。その一点からオレンジ色の燦爛たる採光が放たれると徐々に茜空が拡散して日輪が顔を出す。感動の一

瞬に一同揃ってスマホを向ける。８月 24 日のドラマが始まった。朝食後に準備体操を済ませて稜線に沿って別山南峰・北峰に向かう。今日もまた小癪な天気予報は昼から一時的な雨。滑り易い岩ザレを上ると別山南峰に到着。青空の下、眼前に巨大な岩塊の剱岳がどっしりと胡坐をかく壮大な風景を楽しむ。強い日差しで汗をかきながら別山から剱御前小舎に到ると女性リーダーの MS さんの判断で岩ザレで滑りやすい雷鳥沢のコースを避け遠回りだが新室堂乗越分岐点から雷鳥平に下るルートを選択。左手に見える立山連峰の稜線の下は氷河がスプーンで抉った様に荒々しく地肌を剥き出しにしたカールが急峻な地形を織りなす。そこに逞しい高山植物がへばりつき緑色の斑のコントラストを演出しカレンダーにしたい様な景色を展開する。足元に目をやれば岩場から青紫の小さなイワギキョウと少し大きなチシマギキョウが顔を出し突然ベニヒカゲ蝶が現れサンバを舞う。雷鳥平に下りるなだらかな道を挟んで広がるコバイケイソウの葉は黄色に色づき始め高原の秋を予感させる。外輪に囲まれた平場のキャンプ場には色とりどりの幾つものテントが張られ家族ずれで賑わっていた。最後の急階段を登れば起点の雷鳥荘に戻れる。あと一息。すると小癪にも雨がパラパラと降り始め大粒に変わった。今日もまた雨合羽を慌てて取り出し最後の目的地みくりが池温泉にたどり着く。窓外の大日岳を見ながら日本で一番高所にある乳白色の温泉に浸かりリフレッシュ。さっぱりした身体で食堂に一同が会し思い思いの昼食を食べると山楽会会長の HT



さんから訪問先毎のスタンプを押した手作りのスタンプ帳が全員にプレゼントさるサプライズ。一同その気配りに感激。バスで美女平経てケーブルカーを乗り継ぎ富山電鉄立山駅、そして富山駅には予定より早く午後２時半に到着し其処で解散となる。個性あふれる 11 人の仲間たちが楽しく貴重な立山山行を味わい満足感に満たされた。

（H.N 記）